

令和2年度 (4月～令和3年3月) 特別展・企画展 展覧会のご案内

企画展『染型紙の技と美 ー伝統文様から「かわいい」までー 名古屋造形大学所蔵・石井コレクションを中心に』 第2民芸館
同時開催『木工芸 黒田辰秋が集めたもの 黒田家寄贈資料展』 第1民芸館
 ～5月24日(日)まで <観覧 無料>

企画展「Folk Crafts ー世界の手仕事 館蔵コレクションよりー」 第1・2民芸館
 6月2日(火)～9月6日(日) <観覧 無料>

世界には200近くの国があります。それぞれの国や地域でその暮らしの中から民芸品が生み出されています。様々な国で布が織られ、染められ、刺繍がほどこされています。また焼き物が焼かれ、籠が編まれ、人形が作られています。しかしそのすべてが一様ではありません。色、模様、かたちが様々です。東京オリンピック・パラリンピックが開かれる本年、館蔵品より世界の手仕事を紹介します。オリンピックで活躍する選手の国々の品もあるかもしれません。アジア、アフリカ、南アメリカの染織品を中心に展示紹介します。



タペストリー
エクアドル サラサカ族

2020年豊田国際紙フォーラム『IAPMA展』 第1・2民芸館
 9月17日(木)～10月11日(日) <観覧 無料>

豊田市で開催される国際紙フォーラムに合わせて、世界中から応募のあった「紙」を主体としたアート作品のうち、IAPMAが選定した優秀作品を展示します。
 (IAPMA = The International Association of Hand Papermakers and Paper Artists)



2018年 IAPMA展(ブルガリア)

特別展『柳宗悦と古丹波』(日本民藝館巡回展) 第1・2民芸館
 10月27日(土)～2月28日(日) <観覧 有料>

日本民藝館の創設者・柳宗悦(1889～1961)は、晩年、古丹波について、「最も日本らしき品、渋さの極みを語る品、貧しさの富を示すもの」と評しています。また柳は、焼き物の上に降りかかった薪の灰が自然釉となる灰被に「他力の美」を見出しています。日本民藝館の丹波焼コレクションの中から約100点を展示紹介し、その古丹波の魅力に迫ります。なお本展は、令和元年度に日本民藝館で開催された展覧会を再構成した内容です。



自然釉壺
鎌倉時代 日本民藝館蔵

企画展『植物文様の民芸』 2月9日(火)～5月10日(日) <観覧 無料> 第1・2民芸館

牡丹文を貼り付けた半胴甕、大輪の菊模様が美しい石皿、松竹梅が描かれた蓬菜箱など、様々な植物をモチーフに取り入れた民芸品は多くあります。これらの民芸品の多くが盛んに作られていた江戸時代では、それぞれの植物をどのように認識し、また、どのような意味や祈りを込めて描いたのでしょうか。江戸時代中期の図説百科事典であり、同時代に発行された絵入り事典として圧倒的な項目数を持つ『和漢三才図会』の挿絵とともに民芸品を紹介します。

民芸館ギャラリー(第3民芸館)のご案内

令和2年4月5日(日)まで	令和元年度民芸館講座作品展
4月11日(土)～	名古屋造形大学学生型紙ポスター「日本の美」展
6月6日(土)～	(仮)Folk Craftsが生まれる世界の国々展
8月9日(日)～	みんなの作品展
9月17日(木)～	藤井達吉サテライト展(2020年豊田国際紙フォーラム事業)
10月31日(土)～	(仮)壽岳文章展(2020年豊田国際紙フォーラムパートナーシップ事業)
12月5日(土)～令和3年1月17日(日)	郷土玩具展 干支と丑
1月23日(土)～	第7回伝承拳母木綿展
3月23日(火)～	令和2年度民芸館講座作品展

この展示案内は、年間計画のため今後日程・内容等が変更となる場合があります。